

### 熱心に祈る

(使徒の働き1・12〜14)

#### 一、祈ることは御心に適う

私共が、見えない神に、すなわち知性や感性では捉えることのできない神に祈るのは主の御心です。聖書の記述によりますと、最初の間アダムとエバは、自分たちが神のようになって、善悪を知るようになるという誘惑により、すなわち神から離れてすべてを自分で判断することができるようになるといふ蛇の誘惑により、神から離れて歩むようになりました。「蛇」は、今日に当てはめるなら、自分の内側から聞こえてくる「罪の声」——すなわち、神に聴き従わなくとも大丈夫だという声——に置き換えられると考えます。こうして、アダムとエバは神に背を向ける生活を始めるようになり、神との交流が死んでしまいました。創世記は、神を恐れない人間がどれだけ悪に対して弱いかを物語っています。同時に、自らの意思で神を退けた人間に対する、神の失望を読み取ることができません。

人となられた神イエス・キリストは、しばしば祈っておられました(ルカ5・15b〜16を参照)。

#### 二、弟子たちが祈った姿

さて、きょうの聖書箇所がどのよう

な箇所であるかを、前後関係から見えてまいります。3節をご覧ください。(使徒イエスは苦しみを受けた後、四十日間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、自分が生きていることを使徒たちに示された。)とあります。神の子イエス・キリストは、私たちの罪のために受難の道を選び、十字架で死ぬ道を選ばれました。しかし神は、御子イエス・キリストを死者の中から復活させられました。

復活された主イエス・キリストは四十日の間、弟子たちに御自身を現されました。そして、天(＝神の御住まい)に帰られました。9節です。(こう言うことから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなりました。) それから弟子たちは、すなわち十一人の使徒と、主イエスの支援者であつた者たちは家に集まり、祈って「父の約束」である「聖霊のバプテスマ」を待ち望みました。何日間、祈り求めたのでしょうか。十日間です。そして、十日後のペンテコステの日に聖霊が降り、みな聖霊に満たされて他国の言葉を語り出し、教会が誕生しました。その時に祈りに加わっていたのは、前後関係から百二十名ほどの兄弟姉妹だったようです。ですが、きょう開いた聖書箇所を見ますと、始めはもつと少なかったようです。13節、14節です。人数を数えますと、十一人の使徒たち、プラス十

名ほどの、約二十名で祈っていました。場所はエルサレムにあつたマルコ(と呼べられたヨハネ)の母の家と思われます。どうしたら十日間も、こんなに熱心に祈れるのでしょうか。

#### 三、熱心な祈りをめぐって

私共が所属する日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団は、キリスト教会の中では、熱心に祈る信徒が多い教団かと思えます。それはともかく、熱心に祈るためには、神の助けが必要です。逆に言うなら、長時間祈っている人は、神の恵みに支えられている人です。聖霊に支えられている人です。どこ教会にも、祈りの人がいます。教会はそういう方々の祈りに支えられ、活動が続いていることを忘れてはなりません。祈りによって、教会は幾多の試練から守られ、新しいたましいが救われます。

#### 四、主は待っておられる

皆さまは、こんなことを思ったことはないでしょうか。「なぜ、神は祈らせぬのだろうか。私たちが祈らなくとも、神は全能だから何でもできるではないか」と。これに対する私の答えは次の通りです。神は全能ですから、私たちが祈

らなくても、事を為すことができになります。しかし、主は私共が祈ることを待っておられるようです(ヨハネ16・24、ルカ18・1〜5を参照)。熱心に祈ることは、主の御意思に適ったことであると信じます。ただし、注意しなければならぬのは、熱心に祈り求めることによつて、自分の信仰が現実を動かしたと思いがらぬことです。先ほどもお語りしましたように、神は全能ですから、私たちが祈らなくても事を為すことがおできになります。ということは、主は敢えて私たちに祈らせ、敢えて私たちの祈りを聞く形で、御手を動かされるということです。熱心に祈り求めるなら、現実が変わっていくことでありましょう。それは、主が私たちの祈りを聞くという形で、現実を動かされるからです。これを取り違えますと、神に向かって命令しているような祈りになります。あるいは、主イエスが注意された言葉のようになってしまいます(マタイ6・7を参照)。

おそらく、私たちの周りは問題だらけです。そのような場合に、次のようにしたらいかがでしょうか。第一に、どんなに苦しい状況であっても、主がご存じであると知る。第二に、主イエス・キリストが「求めなさい。そうすれば受ける」とおっしゃった言葉を信じるということです。